

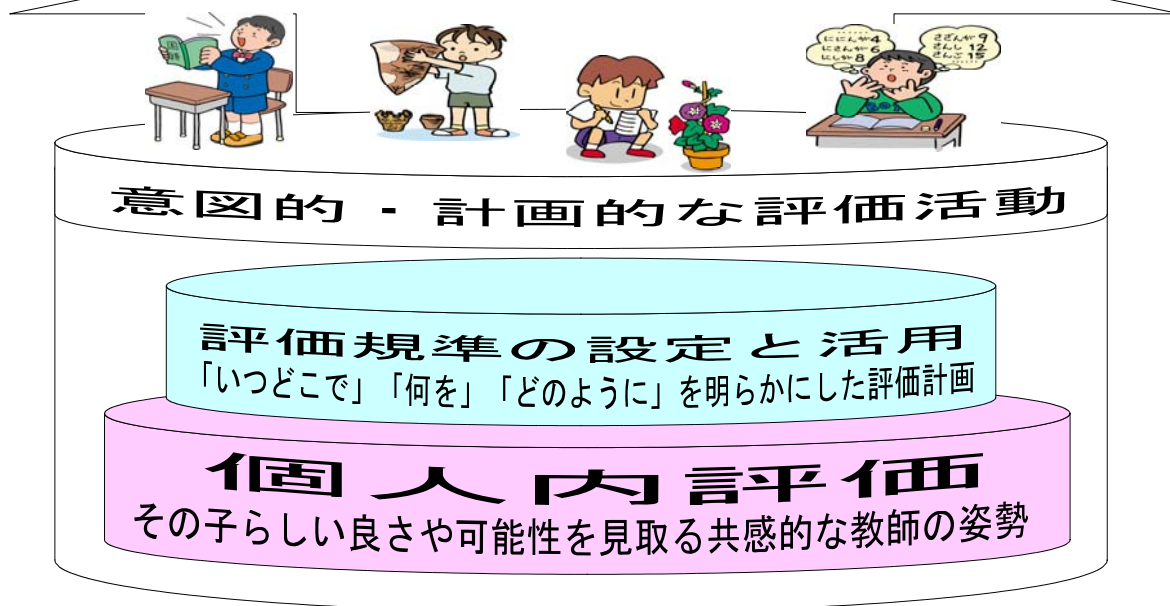
Ⅳ． 視点 3

【視点3】

一人一人の学びを共感的にとらえ、観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす評価の工夫

より効果的な指導・支援へ

その子の良さや変容を的確に見取る



1. 一人一人の学びを共感的にとらえる

(1) 個人内評価の重視

その子らしいよさを

子どもの主体的な学習が進められる中、自ら学ぶ意欲の高まりやよりよい問題解決、個性の伸長などにつながるように、個人内評価を工夫する必要がある。

個人内評価とは、子ども一人一人のよさや可能性がどのように変容してきたか、進歩の状況はどうかなど、子ども個人のレベルで見取る評価である。

子どものよさを評価することは、子どもを元気づけることになる。一人一人に応じた、その子なりの変容をとらえ、その子どもが自らの変容に気づき、自信を高めていく工夫が必要である。また、「次にこうすると、さらによくなる」とか、「ここが克服すべき課題となるよ」などと、励ましながさらなる進歩を促すことも重要である。

このような目的を持った個人内評価を効果的に進めていくためには、一人一人の学びの状況や成長の状況を時間軸と空間軸で評価していく必要がある。

(2) 一人一人の学びを共感的にとらえるために

評価は、評価をする時期で3つに分けることができる。

○診断的評価・・・単元を指導する前に子どもたちの興味・関心や既

習事項の定着などをとらえる評価。子どもたちの実態に応じた指導計画を組み立て、より効果的な指導をするために行う。

○形成的評価・・・単元を指導する過程で、目標の実現状況をとらえる評価。子どもたちの一人一人の実現状況に応じ指導・支援をするために行う。

○総括的評価・・・単元の終末に、単元の目標の実現状況をとらえる評価。その単元の指導がねらい通りに行われたかどうかをとらえ、その後の学習等に生かすために行う。

総括的評価、評定も大切な評価であるが、もっと大切なのが形成的評価である。なぜなら、子どもは教師が思っているほど分かっていないことが多い。わからないと関心や意欲もわかない。だからこそ、要所、要所で子どもの理解を確かめ、だめだったらフィードバックをしたり、あるいは次の関連の時にオーバーラップして指導したりしながら励まし、子どものつまづきを取り除いたり和らげたりして問題解決できるよう指導・支援をしていくことが重要となる。

子ども一人一人の学びを共感的にとらえるとは、まさにそういった継続的で地道な活動を繰り返していくことに他ならないと考える。

2. 指導の改善に生かす評価の工夫

意図的・計画的に

指導と評価が、教師の意図的・計画的に行われる必要があると考える。そうでなければ、教師による評価活動が適切に実施されなかったり、場当たりのに行われることになる。計画をしっかりと立て、指導し、評価することによって、評価に対する客観性や信頼性が維持されてくるのではないだろうか。

また、何よりも重視したいことは、【評価の目的は、評価結果を授業改善に生かす】ということである。子どものよりよい成長のために、評価を次の授業に生かし、確実に基礎・基本を身に付けていくことにつながると考える。

このように考えると、評価の観点や方法が子どもの学習活動と一体化されているかどうかを常に見直していく必要がある。

「いつどこで」
「何を」
「どのように」

評価計画を立てる際には、

「いつどこで（場面）」「何を（観点）」「どのように（方法）」

を明らかにして計画を立てる必要がある。

「いつどこで」とは、例えば一単位時間であれば、その授業のどの場面か、つまり、子どもたちがどんな学習活動をしているときかということである。

「何を」とは、いわゆる観点別評価規準である。

「どのように」とは、観点別評価規準で見取る方法ということになる。

あらかじめ、これらを指導計画に位置付けることにより、意図的・計画的に評価活動を行うことができると考える。

努力を要する
子どもへの手だて

さらに、その時間に重点としている評価規準に照らし合わせ、努力を要すると評価した子への指導・支援の手だてをあらかじめ計画しておくこと

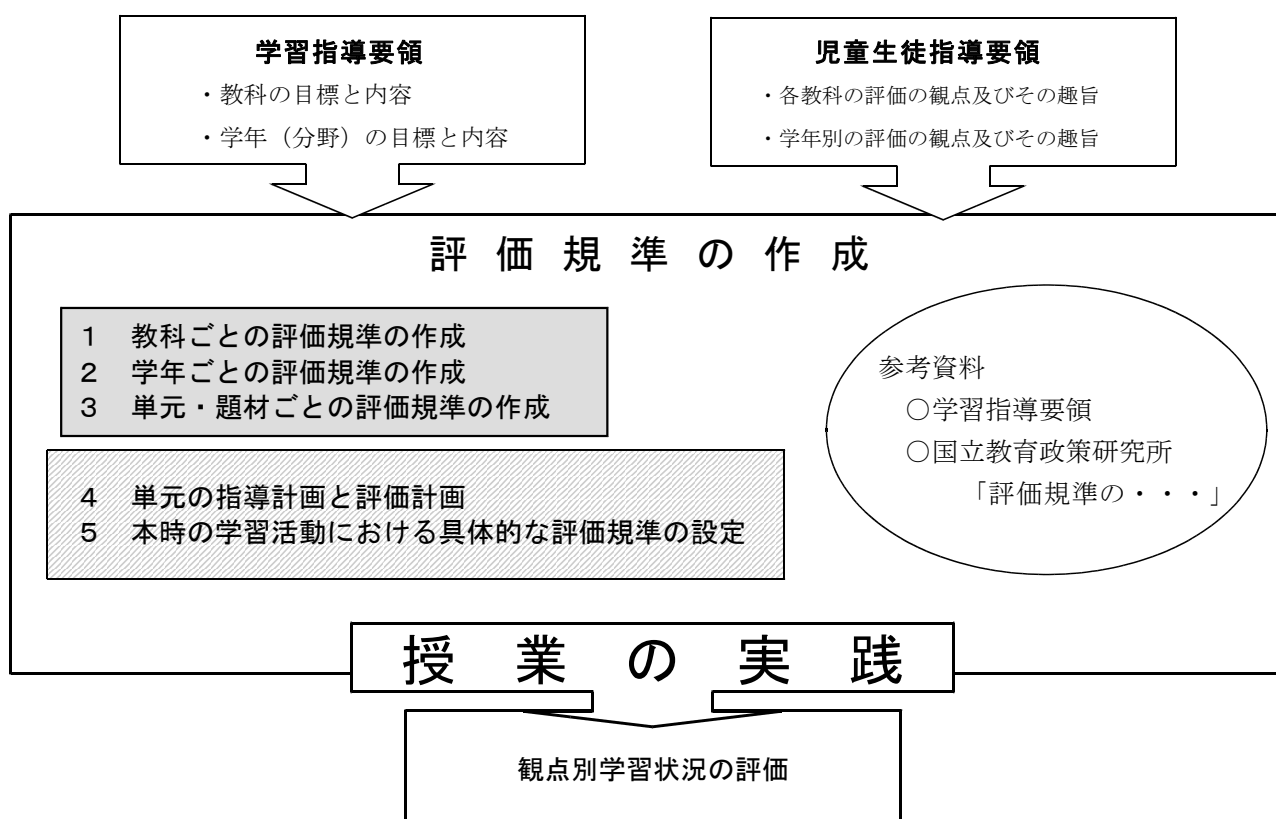
で、さらに指導と評価の一体化が図られ、よりより指導が展開されていくと考える。

ただし、ここで重要なことは、子どもたちの学習活動と評価場面、観点、方法がしっかりとリンクしあっているかということである。

言い換えれば、その評価の観点にふさわしい学習活動が行われているかどうかということを教師は常に見直していかなければならない。

3. 評価の実際

学習指導要領のもと、各学校ではどのように評価規準を設定し、日常の評価活動を充実させ、指導の改善に役立てるかが大きな課題となっている。そこで、本委員会では、日々の授業における具体的評価を結びつけてイメージしやすいよう学習指導案で示していく。学習指導要領や国立教育政策研究所作成の参考資料等を踏まえた上で、まず「単元の評価規準」を設定し、続いて従来の単元の指導計画に評価規準を盛り込んだ「単元の評価計画」、さらに本時の「単位時間の評価規準及び評価方法」の順に示した。



単元の評価規準を設定し、また、指導計画に評価規準を盛り込んだ単元の評価計画、さらに本時の単位時間の評価規準及び評価方法を示した学習指導案例
(例) 小学校理科 第5学年「おもりののはたらき」

1 学年 第5学年

2 単元名 「おもりののはたらき」

3 単元について

(1) 単元観

(2) 指導観

【省略】
・日時
・学級
・人数

【省略】 児童(生徒)観

学習指導要領及び国立教育政策研究所作成の参考資料等から「内容のまとまりごとの評価規準及びその具体例」を参考に示す。評価の流れをわかりやすくするため、記号と番号(ア・①)を付す。

※【「B物質とエネルギー」の評価規準の具体例】から本単元に関連ある項目を示す。

4 単元の目標

おもりを使い、おもりの重さや動く速さなどを変えて物の動く様子を調べ、物の動きの規則性についての考えをもつようにする。
ア 糸につるしたおもりが1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、糸の長さによって変わる。
イ おもりが他の物を動かす働きは、おもりの重さや動く速さによって変わる。
(児童がアまたはイのいずれかを選択して調べるようにする)

【学習指導要領の項目 B(3)】

学習指導要領の内容から該当の項目を明らかに示す。
※本単元からは、理科【第5学年】「B 物質とエネルギー」の(3)

5 評価規準

ア 自然事象への関心・意欲・態度	イ 科学的な思考	ウ 観察・実験の技能・表現	エ 自然事象についての知識・理解
①ふりが衝突したときの運動の変化に興味・関心をもち、自らそれらの物の運動の規則性を調べようとする。	①ふりが衝突したときの運動の変化とその要因を関係付けて考えることができる。 ②ふりが衝突したときの	①運動の規則性を調べる工夫をし、それぞれの実験装置を操作し、安全で計画的に実験やものづくりをすることができる。	①糸につるしたおもりが1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、糸の長さによって変わることを理解している。

重点的に扱う項目は◎で示す。

「5 評価規準」を単元計画の中に具現化して位置付ける。

6 指導計画

指導計画		評価計画				評価方法	
小単元	学習内容（時数）	関心	思考	技能	知識		評価規準
導入	【おもりで遊ぼう】 ブランコやボーリングなど日常生活の経験を想起しながら、ふりこや物の衝突を利用したゲームで遊び、課題選択への意識付けをする。（１）	◎				ア ① ２種類の課題に興味をもち、進んで課題を選択し、調べようとする。	行動観察
課題別学習	ふりこの運動 【おもりのひみつを調べよう】 実験装置を考え、制作し、おもりの重さ、糸の長さや振れ幅を変えて、ふりが１回往復する時間を調べ、表やグラフに表す。（３） 本時３／３						作品 （実験装置） 行動観察 ワークシート
	物の衝突 【おもりのひみつを調べよう】 斜面を用いた実験装置を考え、制作し、当てるおもりの重さや転がす高さや勾配を変えて衝突させ、当てられたものの動いた距離を調べ、表やグラフに表す。 本時３／３	○	◎	◎	○	「７ 本時の展開」を参照。	

本時は網掛けで示す。

本時は網掛けで示す。

7 本時の

(1) 本時

「5 単元の評価規準」から本時レベルにおろした評価規準を示し、関連を()書きで付す。

※本時で重点的に扱う「科学的思考」と「観察・実験の技能・表現」は、ゴシック体で示す。

(2) 観点別

- 自然事象の関心・意欲・態度
自ら実験方法を考え、積極的に実験に取り組もうとしている。

(ア①)

◎ 科学的な思考

ふりこが1往復する時間やおもりが衝突した物が動く距離は、おもりの重さによってどのように変わるか予想し、それを確かめる実験を計画することができる。

(イ②)

◎ 観察・実験の技能・表現

おもりの重さを変えて、ふりこが1往復する時間やおもりが衝突した物が動く距離の変化を正確に調べ、表やグラフに表すことができる。

(ウ②)

- 自然事象についての知識・理解

おもりの重さと、ふりこが1往復する時間やおもりが衝突した物が動く距離との関係がわかる。

(エ①②)

(3) 準備物

本時の評価規準は重点化したもののみを示し、特に重視する項目及びその方法をゴシック体で示す。

【省略】形成的評価の項目

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
ふりこの運動 : 物の衝突			
本時の課題を確認し、1時間の活動を予想する。	単位時間の中での本時の位置付けと、本時の課題を意識させる。		
ふりこが1往復するのにかかる時間を調べる実験を考え、実験計画を立てる。	おもりの重さを変えたとき、何がどのように変わるかを生活経験から予想させ、その予想を確かめる実験を計画させる。	ア①実験計画について話し合おうとしている。 イ②結果を予想しながら実験計画を立てる。	行動観察 ワークシート
グループ毎に、実験計画と予想した結果をホワイトボードに書いて、発表する。	発表内容を類似した予想ごとにまとめる。	ウ②要点を押さえて発表する。	行動観察
おもりの重さを変え、振り子の周期の変化を調べる実験をする。	グループで協力し、意見を出し合いながら実験を進める。 実験中に気付いたことも、実験に生かせるようにする。	ウ②計画にしたがって正確に実験する。	行動観察
実験結果をワークシートに整理し、おもりの重さを変えたとき、ふりこが1往復する時間や、おもりが衝突した物が動く距離が、規則性をもって変化したか、グループで話し合う。	おもりの重さに注目させ、規則性が生じた理由を推論させ、誤った規則性を導いている場合には、結果の解釈の仕方を個別指導する。	ウ②結果をグラフにすることができる。 エ①②結果から規則性を理解することができる。	ワークシート
実験からわかったことをグループで整理し、次の時間に発表できるようにする。	箇条書きにするように指示する。		

【視点 3】
「一人一人の学びを共感的にとらえ、観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす
評価の工夫」

(1) 目標に準拠した評価規準の設定と評価の観点や場面・方法

小学校 4 年算数科「小数」の実践より

(p 36 ～ 「本時の展開」 参照)

本時の目標と照らし合わせると、本時は【数学的な考え方】に重点をおいた。そして、それは、課題提示によってどう考えたか、自力解決時だけで判断することはできない。よって、自力解決時だけで見取るのではなく、自力解決から全体交流を通して見取っていききたい。自力解決や小集団交流ではノートや直接聞くことで見取ることができる。また、全体交流の話し合いでの発言や観察により変容を確かめていく。自力解決では考えが持てなかった子にはついては、どのような支援が必要であるか、あらかじめ準備する必要がある。それら支援を通して、どう変容していくか見取っていく。まとめの段階で、そのまとめに対してどう考えているか発言を求めたりして判断したい。

(2) 座席表の活用

子どもたちの見取りとして、座席表に子どもたちの思考の過程を記述している。しかし、自力解決の進まない子への支援が第一であるので、全ての子を見取することはできない。予め予想される考え等を記号化したり、端的に記述する方法もある。また、自分はどの考えなのか黒板へネームカードを貼る時はそこで見取ることができる。座席表による見取りは、全体交流の際、子どもの悩みや意見・考えを引き出す際にも有効である。

小学校 4 年算数科「小数」の実践より

(座席表一部抜粋)

A Y 関) ----- B 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 5 mm が 3 つ → 5 mm で 10 等分	K Y 関) 0.1 や 0.2 とか A 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 1 cm 5 mm が 3 つ → 5 mm が 3 つ	T M 関) ----- B 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 1 cm 5 mm が 3 つ → 5 mm が 3 つ	T K 欠 関) ----- 考) -----
W T 関) ----- B 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 5 mm が 3 つ → 5 mm で 10 等分	O S 関) 1 0 0 m l とか A 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 5 mm が 3 つ → 5 mm で 10 等分	I S 関) ----- B 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 5 mm が 3 つ → 5 mm で 10 等分	M Y 関) 目盛りをつける A 考) ----- A 5 mm で 10 等分、目盛りは 10 が多い → 5 mm で 10 等分
関) 1 dl に満たないはしたのかさの表し方に関心 を持ち、どのようにしたらよいか考えようと している。 考) 既習の経験と気づけて、1 dl に満たないはし たのかさを 10 等分したいいくつかと考える ことができる。			
		N M 関) ----- B 考) ----- B 1 cm で 5 等分 → 5 mm が 3 つ → 5 mm で 10 等分	K R 関) ----- B 考) ----- C 1 cm で 5 等分 → ?
		M Y 関) ----- B 考) ----- C 1 cm で 5 等分 → 1 cm 5 mm が 3 つ	O F 関) ----- B 考) ----- C 1 cm で 5 等分 → ?

(2) 自己評価～「ふりかえりカード」の活用

子どもたちが、その時間の学びがどうであったか、学習の仕方や内容についてふり返ることが大切である。そのことで、主体的に考えたり学習内容の確認や次の時間の課題をつかんだりすることができる。「この時間で得た考え方や身につけた力、学習内容が次の時間のこの学習に生きる」という実感を持たせていきたい。そこで、子どもが常に自分の学び方がどうであったかを意識し、変容に向けられるようにふり返りを連続して記入できる形式とした。また、子どもたちが、何をふり返ればよいのかを意識しやすくするために、ふり返る観点を提示した。特に、「今までの学習を生かして考える」という観点を常に持たせたいと考える。

小学校4年国語科「一つの花」の実践より

(ふり返りカード(シート))

ふり返りシート 氏名 _____

教科: 国語 単元: 一つの花

★ 次のことを中心に、その時間の学習をふり返ってみましょう。

① 資料や言葉を手がかりに考える。
② 友だちと交流して考えを深めたり広げたりする。
③ これまでの学習を使って考える。
④ その他

9月13日(水) ①の事で最初に読んだ時にコスモスということにひかれて、そのことを出会いの感想でまとめて言えたのでよかったです。そして、読みの目録でも考えられたりよかったで「もし、か」重要なことも、書けたからよかった。 *8/14 言葉に合うように書けた。 9/13 (水)*

9月14日(木) 今日は、昨日よりも、自分の考えをみんなに伝えられたし、母さんの気持ちもよくわかったのよかったと思ひます。でも、まとめて、先生から当てられたので自分から発表したい。 *で読んだ内容のことです。 9/14 (木)*

9月15日(金) 今日は、当てられなかったけど、手上げて自分の考えを考えたのでよかった。交流では、由佳とやきもんに思ったことを、「どう思う」というふうにほかの人にも聞けたからよかったと思う。でも今日は、あまり自分の考えを伝えられなかったから、昨日は、あんなにいいから自分の考えをみんなに伝えたい。 *明日? 友だちと伝え合おうとする気持ち。 9/15 (金)*

9月16日(土) 今日は、2時半くらいから、そのなで課題について「どうじゃあ、の」というふうに意見をたくさんいえたし、まとめて、自分の考えたことを言えたのでよかった。今日の交流はよかったと思ひます。 *今日は、授業が長くつらかった。 9/16 (土)*

◆ふり返りの観点

ふり返りシート 氏名 _____

教科: 国語 単元: 一つの花

★ 次のことを中心に、その時間の学習をふり返ってみましょう。

① 資料や言葉を手がかりに考える。
② 友だちと交流して考えを深めたり広げたりする。
③ これまでの学習を使って考える。
④ その他

9月13日(水) 私は、せんそうというお話はあまり考えたくなかった。だって、死ねとか、何がこわれるとか、かすしいとかいいたくないからです。でも「一つの花」のことで勉強して、いうとその時代はこういう時代とか自分できち味をもちながら考えられるようになったので、とてもよかったです。それに、出会いの感想でも自分なりに一つの花、その時代のことで考えられた。 *9/13 (水)*

9月14日(木) ゆみこのお母さんの本当に思っていることを考えられたし、その時代のさびしさや、つらさがよく分かった。一つの花にこめられた思いもつたわって、きました。 *すばらしい発想がありましたね。 9/14 (木)*

9月15日(金) 今日は自分の考えをみんなに伝えたい。後、どなたか考える時に、もうちょっと見えて意味を考えればよかったところか、いしている。でも一つにしようなら、いけないうことではないことをおぼえられた。今日はとてもいい勉強をした。 *自分が一度考えたことをいはずなれて、もう一度考え直してみると、新しい発見があるかもしれません。 9/15 (金)*

9月20日(水) 今日は一つの花にこめられた思いや、かだいにいっておく、よく考えられた。とても重なる場面でもあったし、色んなことが出てきたこともあったので、かなり気合が入っていた。交流では自分はどうしてこういうかんがえになったのか、どこをヒントにしたのかを相手にもし、かなりおぼえられたし、相手のかんがえは、ちがうよ、とから、はまれているよ、ということができた。さ、い、後のまじめ、 *友だちと交流して考えを深めたり広げたりする。 9/20 (水)*

◆カード(シート)の工夫
連続して記入できるように
構成した。

◆教師の支援

子どもたちの学びのよさ
働きかけた言葉のよさ
次時へのアドバイス など

【視点3】 一人一人の学びを共感的にとらえ、観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす評価の工夫

中1国語 「河童と蛙」より

本教材である詩『河童と蛙』では、

- ①一つ一つの語句の意味や文章表現に着目し、情景や場面の移り変わりを豊かに想像すること
- ②一人一人が詩を読んで想像したことを交流しあい、自分たちなりに考えたことを群読で豊かに表現することをねらいとしている。

【①のねらいに対する取り組み】

まず、詩を読んだあとに、語句や文章表現に対する素朴な疑問や難解な部分を生徒一人一人が抽出し、ワークシートにそれらを書き込むようにした。次に、一人一人の疑問や難解な表現の理解を図るため、グループで解決に向かう場面を設定した。

教師は、一人一人の疑問や難解な文章表現としてあげられている部分をワークシートの書き込みや対話から見取るようにした。そして、グループ交流の際に、疑問を解決する手だてや文章表現の理解につながる助言などの支援の手だてを構築・実践した。

このような取り組みから、疑問点や悩みを共有し合いながら意欲的に解決に向かい、互いの考えを話し合うことにより、詩に書かれている情景について想像を広げていく姿が見られた。

【②のねらいに対する取り組み】

情景や場面の移り変わりについての学習を深めたのち、読み取ったことを生かして表現する群読に取り組んだ。自分たちなりに読み取ったことを表現するにはどんな工夫があるかをグループ内で話し合い、その取り組みの経過や表現方法をワークシートに記入するようにした。そのワークシートや生徒との対話をもとに、教師は詩の情景と表現の仕方のつながり等を意識させる支援を行った。支援の際には、その時点での表現のよさを拾い上げながら、さらによりよい表現とするためにはどうするかという立場で助言等をした。

このような肯定的な評価をもとに、グループごとの支援を行うことで、群読での表現に対し、意欲的に向上心を持ちながら取り組む姿が見られた。

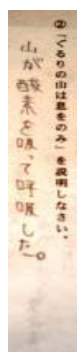
群読表現の最後に発表会を実施した。この発表会では、生徒同士がグループそれぞれのよさやがんばりを認めあい、よりよい表現へと磨き合うことをねらい、相互評価を取り入れた。その際、一人一人にワークシートを配布し、グループごとの群読で工夫されているところや詩の情景がわかりやすく伝わる表現等について、書き込むようにした。ワークシートの書き込みや発言等から、「詩の情景を工夫して表現している」という評価の観点からずれることのないように助言等と行い、よさやよりよい表現の仕方に着目して評価が行われるようにした。

相互評価を行うことにより、自分たちの工夫が認められたことで取り組みに対する達成感や成就感を味わい、また詩の情景等に対する想像をさらにふくらませることへとつながった。

1. ワークシートで個人の考えを教師が見取り、それをグループで解決する手だてにプラスする。

- ・一人一人の考えを教師が見取る

生徒 A



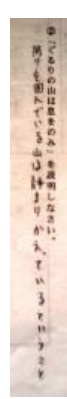
生徒 B



生徒 C



生徒 D



「息をのむ」を
「酸素を吸って呼吸する」
って考えるだな。

回るときに
「ぐるり」っていうから
全部回ったのかな？

「びっくりして
息をのんだ」
おしいな～。

「ぐるり」も
「息をのみ」も
わかっているし、
内容も読み取っているな！

教師の見取り

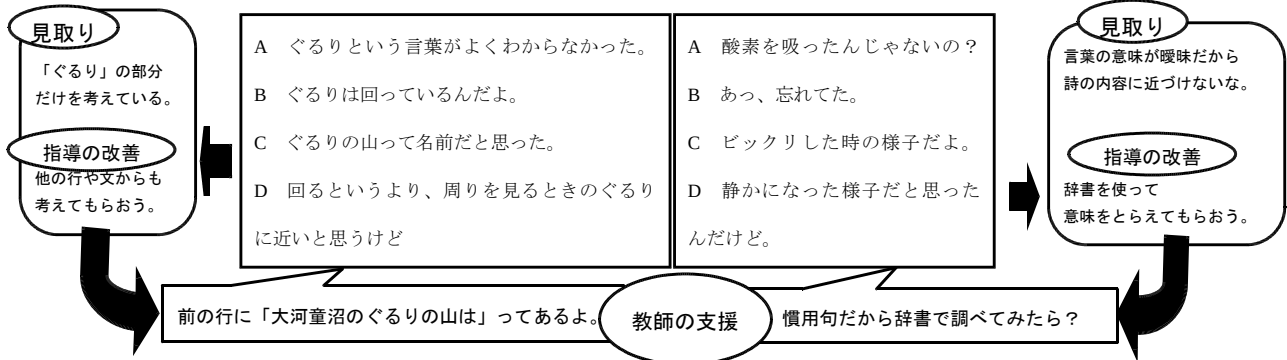


※個人の見取りをグループ交流への支援に生かす

- ・生徒の話し合いの中で、見取りを生かした指導の改善

【「ぐるりの山」って何だろう？】

【「息をのむ」って？】



- ・生徒のまとめ

大河童沼の周りにある山は、河童の唄と踊りを見て、次は何をするんだろうと静まり返って緊張して見ている。

生徒の活動を見取り、指導改善に生かす

生徒のワークシートへの書き込みや対話から生徒の理解を見取り、その疑問の解決につながる支援の手だてを構築・実践した。そこから、疑問点や悩みを共有しあいながら意欲的に解決に向かい、互いの考えを話し合うことで詩の情景について想像を広げていく姿が見られた。

2. グループで読み取った内容を、聞き手にわかりやすく表現するための支援で表現の向上を目指す

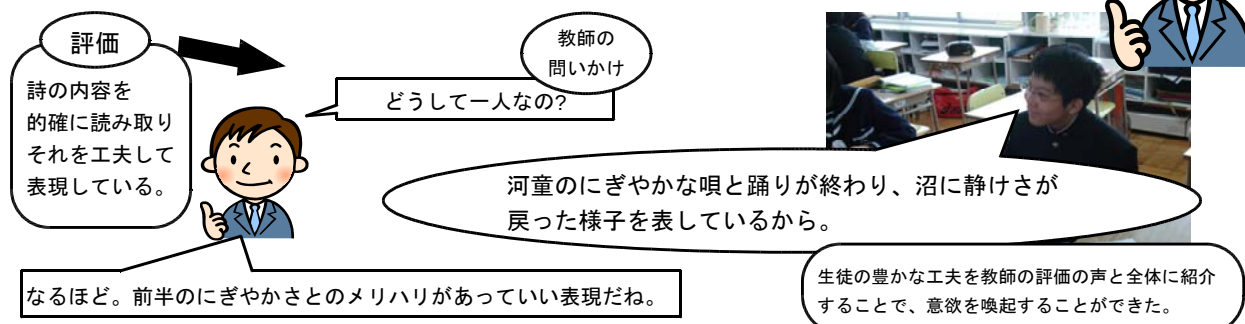
- グループ練習の中で教師の評価シートを使った指導

- ・グループ練習を観察する中で、すばらしい点や改善する点を評価しておく。

教師の評価シート（見取りの例）

A班 第六連まで全員で読む。 第七連から二人でゆっくりと読む。 最後の連⇒男子ひとりの声。 	B班 寸劇が入る⇒他の表現で 群読に工夫をしようとしている。 内容は理解している。 
C班 読み方が一本調子。 動と静のメリハリが薄い。 	D班 河童が唄って踊っている 様子を振り付け 踊りながら、群読している⇒表現の工夫◎ 

- ・A班が、一番最後の「ぐぶうとーと声。蛙がないた。」を男子一人の声で表現した。



- ・B班が寸劇を用いて、表現しようとした。

見取り

寸劇になっている。
群読で表現するように気付かせないといけないな。

教師の問いかけ

視覚的にはわかりやすくなるけど、何で表現するんだっけ？

群読。そっか！劇とは違うんだった！

生徒が考え出した工夫を見直すきっかけを与えたことで、群読でのよりよい表現を見つけ出す意欲につながった。

そうだね。他のグループの工夫も参考にしてみたら？



指導改善をするための方法の工夫

自分たちなりに読み取ったことを群読で表現するためにどんな工夫があるかを、読み取りの経過や表現方法をワークシートに記入するようにした。そのワークシートや生徒との対話をもとに、詩の情景や表現の仕方のつながりなどを意識した支援を行った。その際に表現のよさを拾い上げながら、さらによりよい表現とするためにどうするかという立場で助言等をした。

3. 自分たちの読み取りを群読で表現したよさに気付く

- 各グループのよさや頑張りを学級全体で認め合う支援

発表前に生徒全員に各グループの群読の工夫などを紹介した。

自分の進の群読の聞き所・見所
手拍子や重なりをしよう

群読の工夫を紹介しよう。
・らんらんらんぶんぶんとの河童が歌、たりたりたり
している様子だから手拍子や重なりをしよう。歌、たり
たりたりとにさやかな様子で表している。
・もり上がりかきとこは全員で大きい声で、たり
強調するところは大きい声でいうという工夫をしている。
・もり上がりかきとこは人数を多にしたゾ、少なかったり
している。

手拍子のリズムや
輪唱っぽくしたところ、
みんなわかってくれるかな？

手拍子と輪唱でどれだけ河童の唄
が表現できているか楽しみだな。

人数によって、静と動を読み分ける
なんてすごいね。



「河童と蛙」解説評価シート

1年

①、自分の虫のよかったところと悪かったところを書き
出されたところ

②、外へ入る声を書いた。
解明した成果がでた。最後の蛙のこ
えか暗いところから表現できたと
言える。

③、思いついたところ

④、最初のほうを書いたら、元気に書い
てみた。少し足した。

⑤、組の虫のよいところを書き直しよう。
(一) 組)

おどろいて書いて、あとで自分が表現できていたのを
良かったと思えている。

(二) 組)

いはいはいのところを好きなように書いた。どうもよく
わかってる。みんな順番に書いてくれたのが、よく表現されていいと思った。

(三) 組)

楽器や声で、おもしろく、暗さを表現
しやすいようになった。

(四) 組)

うたがききたまうと聞きました。
よかったです。内容に沿って書けたです。

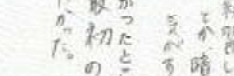
(五) 組)

すばらしい。表現されていた。
よかった。力がかもともと毛
良かに。

踊りまではできないけど、
人数を変えたり、手拍子を入
れるだけでも、もっと自分
たちの群読がよくなった
かも…。

〔詩の内容理解に立ち返る
どうして元気に読んだら
いいのかな？〕

河童は楽しそうに



河童は楽しそうに
唄って踊っていたから。

達成感と意欲を高める評価の工夫

- 36 -

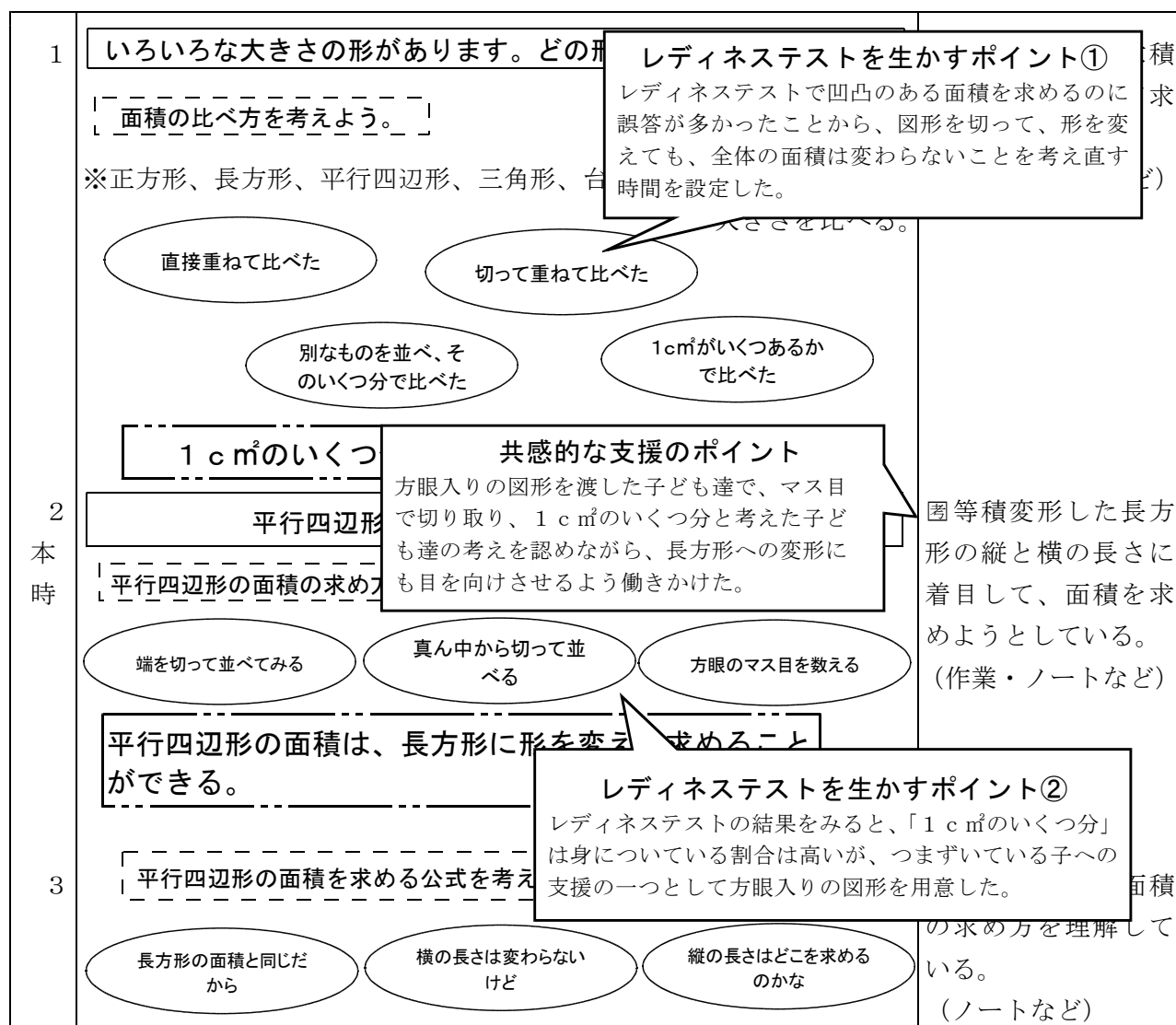
視点3 一人一人の学びを共感的にとらえ、観点や場面・方法を明らかにした指導改善に生かす評価の工夫

レディネステストを行い、子ども達の面積に関わる学習の定着状況と傾向をとらえ、単元構成や問題提示の仕方考えた。レディネステストの結果から、「 1 cm^2 のいくつ分」で表せることは、多くの児童が定着をしていた。反面、凹凸のある図形の面積を求める問題や単位換算の問題で誤答が多く見られた。

そこで単元導入の問題提示では、解決への抵抗感を持たせるために長さの入っていない図形を提示した。面積を求めるために、「図形の何がわかればよいのか」、「どこに着目すればよいのか」を考えつかない子どもに対しては、 1 cm^2 の方眼入りの図形を提示しながら個別に支援を行うようにした。平行四辺形や三角形の面積の求め方を考える時には、図形を切ったり、貼ったりするなどの操作活動を十分にを行い、長方形に帰着して考えられることに気づいていけるようにした。また、このような操作活動を通して、形を変えても面積は変わらないことに気づかせ、凹凸のある面積の求め方にも活用できるようにしていく。

単元の最後にコース別の問題を設定した。これまでの評価状況をもとに、一人一人にあわせて、平行四辺形や三角形の面積の定着を図るコースと発展的な図形の面積を行うコースに教師側でグループ分けをした。また、レディネステストで誤答の多かった単位換算の問題をここで扱うようにした。

単元の指導計画



4

8

9

10 コース別練習問題